

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370400869		
法人名	株式会社 エイム		
事業所名	グループホーム清里		
所在地	名古屋市西区砂原町 418番地		
自己評価作成日	平成27年2月8日	評価結果市町村受理日	平成27年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

●他の施設よりもスタッフの人数を多くし、個別ケアが出来るように力を入れて取り組んでいる。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.aichi-fukushi.or.jp/kaigokouhyou/index.html">http://www.aichi-fukushi.or.jp/kaigokouhyou/index.html</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所開設より10年以上が経過し、職員は利用者に関わる時間を大切に、理念にある「アットホームな介護」を目指して支援している。地域との関わりを重んじ、積極的に学区の行事や保育園と交流している。利用者は子供たちとのふれあいを喜び、とてもいきいきとした表情をみせている。特に「個別ケア」に努めており、利用者と会話したり、利用者の思いを汲み取ったり、今までのライフスタイルを大切にしながら生活を継続できるよう職員配置を通常より多く配置しチームワークよく支援している。また、職員の年代が幅広いことで、色々な世代との関わりができ「昔の大家族」のような暮らしが実現できている。センター方式のシートを使用することで一人ひとりの思いを汲み取り、職員間で情報を共有し、現状に即した介護計画作成を目指している。掃除当番が決められており、清潔で整理整頓された事業所の雰囲気は明るく、笑顔に満ちているホームである。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1階		
訪問調査日	平成27年2月26日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・フロー、玄関、スタッフルーム等に掲示し日頃から目にふれるようにしている。 ・朝の申し送り時全員で唱和する事により、理念を意識して日々の業務に取り組んでいる。	法人理念と事業所独自の理念が、職員が日々目につく玄関やリビングに掲示されている。管理者は職員に「利用者のごく自然に、人として、親や身内のように接して」と話し、統一した意識の下でのチームケアを目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域の祭りや行事に積極的に参加している。 ・近くの保育園との交流会を行っている。 ・行きつけや馴染みの店がある。	小学校で開催した学区のお祭りや餅つき大会、保育園での行事に参加し、地域の人々や子供たちと交流している。散歩で公園に出かけてレクリエーションを楽しむこともある。バイオリン、フルート、太鼓、ギター等の地域ボランティアを受け入れ、音楽を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・運営推進会議を通じて、自治会や民生委員の方に認知症の人の理解や関わり方を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・利用者様の現況や、取り組み、行事等を報告し会議参加者の方の意見や、指摘を日々の業務に活かしている。	2か月毎に開催され、事業所の現状や行事、近況を報告し、参加者から活発に意見が出されている。消防団の協力で救急救命講習も実施している。出された意見にはきちんと説明をし、介護に関する内容は職員と話し合いサービスの向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・支援センターの上の方が替りなるべく会議に参加していきたいと話があったので今後は、今まで出来なかった関係を築いていきたいと思います。	区の介護保険課支所を定期的に訪問し、更新書類やホーム便りを提出し、協力関係を構築したり、市役所とは運営推進会議議事録の提出や相談事で関わりを持っている。ホーム便りはいきいき支援センターにも届け、事業所の日常の取組みや実情を伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・玄関の施錠は夜間のみで、日中は施錠をしていない。 ・利用者様自身に危険が及ぶ場合、どう対応すればよいかをミーティング等で話し合い、拘束しなくてよい方法を検討している。	管理者は拘束についてその都度、実際の事例を基に会議で説明している。職員は拘束の具体的内容を理解し、利用者の安全の確保や自由な暮らしへの支援に日々取り組んでいる。行動を抑制する言葉使いがあれば、繰り返し指導し意識付けを計っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・勉強会や研修で虐待について学び考える機会がある。 ・言葉の虐待等意識しないで行ってしまう事の無いようスタッフ間でお互いに注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・一部のスタッフは勉強会や研修を通じて制度について学ぶ機会がある。利用者様の中には成年後見人制度を活用されているご家族もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時に口頭による説明を行い、重要事項説明書を用意して補足をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・普段よりご家族が話をしやすい関係を築くよう心がけており、面会時に現況を伝え要望があれば伺うようにしている。	意見箱の利用はなく、家族の面会時に生活の様子を伝えながら、意見や要望を聞き取っている。些細な事でも早めに家族に連絡し、信頼関係を築くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・ミーティングで意見を言える環境を作っている。 ・普段から管理者が個別で声をかけ話をする機会を設けており、意見をしやすい雰囲気を作っている。	管理者は日頃から職員とコミュニケーションを図るよう心掛け、月1回のミーティングなどで意見やアイデア、要望を聞いたり、検討を重ね、サービスの向上に努めている。職場環境や勤務体制等経営面に関する内容は法人へ繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・勤務時間や個々の勤務形態の希望を定期的に確認しスタッフより悩みを聞けるよう心がけている。 ・現在、本部が中心となり職場環境、条件の整備を進めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・研修を受ける機会がある。 ・いつ、どのような研修や講習があるか分かるようファイルがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・月に一度、近隣のグループホームが集まる勉強会に参加している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居前の様子を把握し、ホームでの生活に早く慣れて頂けるよう心がけている。 ・日常の会話により要望、希望を聞き出すよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居前よりご家族の困っている事や要望を聞き取りし、入居後も常に状況報告、連絡を密にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入居後は利用者様を知る(必要な支援は何か？希望は?)事から始め、ホームでの生活に馴染み安心して生活を送っていただけるよう、連絡帳やミーティングでスタッフ間が情報交換をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・一緒に調理をしたり、スタッフが教えていただく事もある。 ・利用者様の行きたい所、やりたい事をスタッフと一緒に楽しむ環境作りを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・面会に来て頂き易い雰囲気作りを心掛けている。 ・ご家族の思いも聞き利用者様にとってより良い生活が送れるよう、時にはご家族に協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・希望があれば馴染みの病院や、お店に行く。 ・友人、知人への手紙の代筆や電話など関係を続けられるよう支援している。	近所の人や友人の訪問、家族対応でのお墓参りや外出、外食、電話の取次ぎ等を支援し、関係が途切れないよう努めている。入居後の関わりで喫茶店やスーパーが行きつけとなり、新しい関係作りにも取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者同士の関係がうまくいよう間に入り会話作り等の支援を行っている。 ・必要以上に利用者様同士の間に入らず見守るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・他所への住み替えがある場合はケアの工夫や情報を提供している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・センター方式の『心身の情報シート』を全スタッフが入力する事で利用者様の思いを汲み取るように努めている。 ・日々の会話の中から希望や要望を聞きスタッフ間で情報を共有している。	散歩時や入浴時に利用者とは1対1になる時に直接要望などを聞いている。また、日頃から表情や行動より汲み取り「それを心身の情報シート」に記入したり、申し送りノートに記入して職員間で情報の共有をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居前にご家族に情報シートを記入して頂きホームでの生活に役立てるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・定期的に全スタッフが情報シートを作成して心身状態の変化を共有しミーティングで話し合っている。 ・利用者様の出来る能力を生かし、出来ない部分を手伝うように意識している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・スタッフ全員から集めた情報を元にケアプランを作成している。 ・利用者様に変化があればプランの見直しを行っている。	3ヶ月毎のモニタリング時に職員に「心身情報シート」を記入してもらい、ケアマネージャーがそれをまとめている。それを参考に家族や職員と話し合い6ヶ月毎に介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別の介護記録に日々の様子を分かりやすく記入し、スタッフが個別に利用者様と関わった記録も記入している。 ・ケアマネージャーが記録を確認し、ケアプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・ご家族に代わり病院受診の付き添い等、その都度のニーズに合わせるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・スーパー、喫茶店等定期的に活用し利用者様にとって馴染みの店になるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人やご家族の希望があれば付き添い受診している。 ・入居時、希望を確認している。	入居してからの協力医は2か所あり、それぞれ月2回の往診がある。また、入居前のかかりつけ医の人も往診して貰っている。どちらも入院など必要な場合は情報提供書を入院先に提供して適切な医療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・変化や異常がある時は管理者へ報告し、看護師とも情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時は医療機関に対して情報提供書を提供している。 ・病院関係者と家族との話し合いに同席し状態について話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・終末期の希望は入居時より本人、ご家族と話し合いその時々で変更を行い、書類を作成理解を得ている。 ・ターミナルにおいては全スタッフが取り組み共有している。	医療行為が必要でなく家族の要望があれば看取りまでの支援を可能としている。職員は医師から重度化になってきたと報告があれば家族に説明して現状を理解してもらい、支援方法を共有している。今年度は7名程の看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・急変時の対応についてマニュアルがあり、24時間管理者より指示を受ける事ができる。 ・地域の消防団に協力してもらい救急救命、AEDの講習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・定期的に避難訓練等を実施している。 ・避難場所がわかるよう目に付く所にマニュアルが掲示してある。	年2回、夜間想定と昼間での避難訓練を行っており、職員は1度は必ず参加するようにしている。その他に職員は通報訓練や救急救命の訓練をしたり、学区の避難訓練にも参加している。コンロ、缶ずめ、水などを備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・ミーティングや連絡帳で対応や声掛けについて話し合い、注意するよう心掛けている。	職員は利用者と話しやすい良好な関係になっても、人格を尊重して一人ひとりに応じた対応を心掛けている。訪問調査日も利用者に対して、職員は笑顔で接して親切な対応をしているのが伺えた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・傾聴、受容、共感を基本とし利用者様の希望や要望に応えられるよう、自己決定できるように努めている。 ・自己決定の難しい利用者様に対しては表情や仕草で把握するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・食事、入浴等利用者様の希望時に対応している。外出や買い物等の希望にも出来る限り対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・定期的に移動美容室を利用し全員がサービスを受けられる。 ・希望があればスタッフが手伝い髪染めをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・下ごしらえや調理を一緒に行っている。 ・利用者様の状態に合わせた食事形態に対応したり、好き嫌いも考慮し別メニューの対応もしている。	献立は前日の献立を確認して、重複しないように当日ある食材で献立を決定している。また、ホットケーキ、桜餅などを利用者と一緒に作り楽しんだり、個別で利用者の好きなステーキ、寿司、ラーメンなど外食を楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・水分、食事量のチェックを一日を通して記入し摂取量を把握している。 ・水分不足となりがちな方には好みの飲み物で水分を摂って頂き摂取量を意識している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・スタッフが声かけをし口腔ケアを促している。また、歯科衛生士が週1回入り個々のケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・チェック表へ記入することで、一人一人の排泄パターンを把握しその都度声かけや介助を行っている。	食事前やおやつ前にはトイレに誘導している。他には利用者個々の排泄パターンに合わせてトイレに誘導しており、自立に向けた支援に努めている。夜間は様子を見ながらオムツ交換や声をかけてトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・散歩や適度の運動を行っている。 ・排便状況を把握し食べ物で工夫したり場合によって薬を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・希望があればいつでも入浴できるよう対応している。 ・拒否される方には無理強いせず声かけのしかたや、タイミング等を考え気持ち良く入浴して頂けるよう心がけている。	入浴は月、水、金で10時から14時30分頃までとしている。毎朝のバイタルチェックを確認して入浴して貰っているが、体調により清拭や足浴に変更する時もある。季節を感じるゆず湯や入浴剤を入れて楽しむ事もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・日中の過ごし方も安眠に繋がると考え安心した生活を送って頂けるよう努めている。 ・入床時間は個々の生活リズムに合わせているが生活のリズムが作れるよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・個人の記録に処方箋を添付してある。 ・薬の飲み忘れや誤薬がおきないように、常に服薬時に注意を払っている。 ・薬の変更があった場合は、連絡ノートに記入し情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・ホームの中で出来る事は役割としてお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・天気の良い日は散歩や喫茶店へ出掛けている。 ・希望があれば買い物や外食等にも対応している。	雨以外は近隣の散歩に出かけたり、事業所前の公園で寛いだり、駐車場横にある畑を見に行くなど戸外に出る様に努めている。年2回、春と秋には水族館など少し遠方まで出かける時もある。利用者の好きな野球観戦、外食など個別支援外出もやっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご家族に理解して頂き、利用者様によっては自己にて管理している。</li> <li>・定期的に「おこずかい」を渡し、嗜好品の購入に充てている方もみえる。</li> </ul>		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己で書く事が困難な場合は代筆し投函代行をしている。</li> <li>・電話の希望があれば事前に先方へ了解を得るようにしており、スムーズな会話へと繋ぐ様にしている。</li> </ul>		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飾り付けを変え季節の変化を感じられるようにしている。</li> <li>・和室やソファ等くつろげるスペースを確保している。</li> </ul>	玄関には季節を感じる節分の鬼が飾っており、エレベーター内には日常の様子やイベント行事の写真が掲示されている。各フロアには和室スペースや所々にソファが置いてあり、利用者が思い思いに寛いでいる様子が伺え居心地の良い場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廊下の奥や、一階玄関にソファを置きフロアや居室とは別に、くつろげる場所を作っている。</li> </ul>		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者様の使い慣れた物・思い出深い物等を持って来て頂く様にしている。</li> <li>・希望の方は畳の使用にしたり仏壇を置いたりしている。</li> </ul>	本人が作ったカーテン、足マッサージ器、事業所で作った作品などが置いてあり、個性的な居室となっており、居心地が良く過ごせるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居室のドアに名前を付けたり、トイレにわかりやすい様張り紙をする事で場所の理解が出来るようにしている。</li> <li>・何かあれば改善策を話し合うようにしている。</li> </ul>		